

家庭菜園相談室

今月のテーマ

「6月中旬播き夏栽培のキュウリに挑戦する」 「連続栽培で、長く収穫する」



4月～5月上旬に苗を植え付けたキュウリは、順調に生育していれば6月中旬以降収穫できるようになります。初物が収穫できるこの時期（6月中旬～7月上旬）に種を播いても栽培できます。育てるのが難しいかもしれませんが、じかまき直播栽培に挑戦してみましょう（品種は、Vアーチ、夏すずみがおすすです）。

図1 作型目安

品目	栽培方法	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
キュウリ	トンネル(育苗)	△	▲	□	—	—	□	
	ホットキャップ		△	□	—	—	□	
	露地(育苗)			△	▲	—	□	
	露地(じかまき)				△	△	□	□

△ 播種 ▲ 定植(保温) — トンネル ホットキャップ □ 収穫

●発芽して本葉が1～2枚になって、これからどんどん伸びるときに生育が止まってしまう、ついには枯死してしまうことがあります。

○原因：ネコブセンチュウが根に寄生したことが原因の一つと考えられます。

○対策：土壌消毒材等効果の高い資材もありますが、マリーゴールドを混植すると、線虫の種類によってはほとんど死滅します。また、**良質な完熟堆肥の施用も有効です。**

つる割れ病が心配される場合は、ニラやネギを株元に1～2本混植すると予防できます。

●成り疲れ：キュウリは成長が早く、次々と実がなるので育てて楽しい野菜です。

ですが、調子が良い状態がいつまでも続くわけではありません。

○症状：葉色が薄くなることや曲り果と呼ばれる曲がった状態に実が育つ症状があります。

○対策：草丈が30㎝くらいになるまで、5～7節までは、雌花を摘花にします。1番果を収穫したら、2週間おき位に少しずつ、こまめに追肥をします。

一度に多量の肥料を与えると、キュウリが苦かったりすることがあります。梅雨明け後は、水やりも重要になります。

曲り果や奇形果は若どりします。曲り果が出始める前に「畑のカルシウム」の追肥を行うとよいでしょう。

一晩で巨大な実になることもあるので、少し早いかなと思う大きさで、収穫します。

●病害虫：うどんこ病やべと病は、水はけを良くして、傷んだ葉や古い葉などはすぐに取り除いて、ツルが絡まってしまうような風通しを良くしましょう。薬剤では、ダコニール1000水和剤がおすすです。

害虫では、ウリハムシは、マラソン乳剤またはモスピラン顆粒水溶剤を使用時期・使用回数・希釈倍数等に注意し散布しましょう。



※参考価格 ¥2,268(15kg)



¥1,480(100g)



¥259(100mL)



¥853(250mL)

※価格は、税込み価格です。お求めはファーマーズマーケットへ

家庭菜園に関する相談は、TAC(タック)、支店営農経済担当者までご連絡ください。